

平成 30 年度 事業計画書

平成 30 年 4 月

大阪国際学園

1. 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

(1) 「募集広報活動の強化」

従前からの募集広報活動に加え、WEB 広報を充実させる。ホームページやスマートフォンサイトの刷新を図りながら、SNS 広告、動画等を導線としてホームページ訪問者の増加につなげていく。また、将来を見据え、本学が実施している種々の取組みや活動を、メディア露出を通じて受験者等に訴求していく新たな広報戦略を試験的に導入する。なお、入試広報媒体については、費用対効果を重視し、大幅な見直しを行う。

入試制度については、「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価するアドミッションポリシーに沿った多様な入試選抜への変更を検討していく。

(2) 「授業改善を含む「教学改革」」

これまで「FD センター」主導により進めてきた「授業改善」にかかる取組みを継続するとともに、教学 IR を導入することによる 3 ポリシーの検証に至る方策を検討する。平成 30 年度より認証評価が第 3 クールに入り、「質保証」が重要なポイントとされることから、その基準に沿った教学実施・検証体制となっているかについても留意する。

また、予てより懸案となっていた大学・短期大学部の「教養教育の充実・強化」に向け、「学生の主体的な学び」の実現を目指した新しい運営組織の立ち上げに着手する。

(3) 「国際交流活動の推進」

平成 29 年度には目標の海外協定校 100 校を達成することができたが、平成 30 年度は協定書に基づき具体的な教職員交流・学生交流を進めるとともに、必要に応じ、過去に締結した協定内容を見直し、現状に即した交流の取組みを行う。

また、今後も協定校開拓は継続する。海外研修プログラムは、平成 29 年度実施された 10 研修を引き続き実施し、学部・学科研修、協定校への交換留学生派遣を含めて、年間 300 名以上の学生を海外に派遣し、グローバル人材の育成をめざす。

学内においては、一般学生と留学生とが交流し、異文化理解と相互理解を深める機会を年間を通して提供する。

(4) 「課外教育活動の推進」

クラブ活動の支援として、シンボリックスポーツクラブ 7 団体の強化を図るとともに、文化系クラブの活性化を図る。

環境整備として、松下町校地体育施設の併設校との調整、シャトルバスの運行等円滑な管理を行う。

また、クラブ活動のグローバル化として、国際交流課と連携しながら海外遠征

の推奨、サポートを行う。

クラブ所属学生のエンカレッジ、人間力の向上として、ボランティア活動の奨励とともに海外セミナー、シンポジウム等を開催する。

(5) 「地域交流活動の推進」

本学の地域貢献活動は学園としての活動を含め、地域協働センターを中心に推進している。平成 30 年度は、包括連携協定先（近隣三市、南山城村等）との連携活動、及び大学独自の「公開講座」「OIU キッズキャンパス」「AKV25（関西空港ボランティア）」「地域防災」の 4 活動を軸に取り組んでいく。

重点取り組みとしては、

① 地元行政（守口市・門真市・寝屋川市）課題と連動した子育て支援や高齢者健康促進に協働して取り組むとともに、2 年目となる「OIU キッズキャンパス」の充実、「公開講座」、「防災フェスタ」の継続実施で地域住民への貢献、行政の期待に応えていく。

② 産業界とは、守口門真商工会議所や守口ロータリークラブと関係強化を図り、地元企業との関係間口拡大、新たな企業との関係構築をめざし、学内関連部門と地元企業をつなぐ活動を展開していく。

③ AKV25 をはじめとするボランティアバンク活動は、学生にとって貴重な社会体験、自ら考え行動する場として、地域から認められる存在となりつつある。更なる参加学生の拡大、活躍機会の創出に取り組み、自らの成長に繋がる活動として取り組む。

(6) 「キャリア教育と就職支援の強化」

「キャリア教育センター」が中心となり本学専任教員による「キャリア教育」を人間科学部に続き、平成 30 年度は経営経済学部に拡大する。教育内容としては、社会人基礎力養成を図るとともに、社会との関わりや自己理解の掘り下げを進め、就職活動と連動した教育プログラムとする。

就職支援としてはインターンシップ等産学連携の人材育成の場を通じた学生の実践力・社会人基礎力養成を図るとともに、既存企業に加え新規優良企業の開拓を進め、就職決定率 100%達成に向け全教職員一体となった就職支援体制づくりに取り組む。

2. 大阪国際滝井高等学校

(1) 「募集活動の強化」

入学者の安定的確保を図るため、募集活動の強化のための施策を行う。本校の特色を鮮明にし外部へ積極的に発信するため、オープンキャンパス、学校説明会の日程・内容の見直しを行う。従来の塾長対象説明会に加え、中学校教員向け説明会を新たに実施する。さらに、松下町校地におけるクラブ体験や見学会、昨年に引き続き守口キャンパスでの説明会などを実施する。さらには、ホームページだけでなく SNS を活用して、学校の様子をリアルタイムで発信するようにするなど、滝井高校の魅力を中学生や保護者、中学校や塾関係者などにアピールする。

(2) 「アクティブラーニング型授業推進のための ICT 機器導入」

生徒の主体的、能動的そして協働的な学びを育むため、調べ学習や討論、発表などの参加型授業、いわゆるアクティブラーニング型の授業を推進し、生徒の学習意欲を喚起し学力向上を図る。

平成 29 年度に A L 教室を新たに整備し、ノートパソコン、i-pad11 台、書画カメラ、短焦点プロジェクタや無線 LAN などの ICT 環境整備を行った。稼働率が高く、生徒からの評価も高い。A L 型授業を今後さらに発展させるため、A L 教室以外においても同様の授業展開ができるよう、i-pad70 台（生徒用 40 台、教師用 30 台）及び移動式プロジェクターを購入する。

(3) 「国際交流事業の拡大」

国際交流事業として、従来のカナダ、ニュージーランド、オーストラリアとの交流に加え、昨年度からベトナムボランティア研修、ケンブリッジ研修、UCLA 研修など大和田高校との共催で実施している研修をさらに発展充実させる。平成 31 年度から普通科の修学旅行を選択式から全員ベトナムに切り替え、アジアとの交流を体験させるため、30 年度はその準備のための現地視察や旅行業者との打合せなどを十分に行う。さらには、TV 会議システムを活用した海外の高校生とのリアルタイムの交流を推進する。このような取組みにより、多くの生徒が英語力の向上だけでなく、異文化に興味を持ち、将来グローバル人材として活躍するための知識や教養、視点を身に付けることをめざす。

(4) 「働き方改革の推進」

教員の長時間勤務の解消と生徒指導の充実を図るため、教員補助員やクラブの外部指導者の雇用を推進する。このことにより、印刷、資料整理、アンケート調査の集計などの業務を軽減し、生徒指導の時間を確保する。また、月一回のリフレッシュ DAY の設定により、計画的・効率的に業務を遂行するように意識を高める。さらに、クラブ指導の負担軽減と専門的な技術指導等ができるよう、外部指導者の雇用を推進する。

3. 大阪国際大和田中学校・高等学校

(1) 「ICT 及びアクティブラーニング型教育の推進 (中学・高校)」

ICT を活用した教育を推進するため、設置されたプロジェクターを十分に活用し、授業の効率化を図る。その為、デジタル教科書等を購入する。また、教員用のパソコンを数台導入して授業の支援を行う。

また、本校にふさわしいアクティブラーニングの研究開発を行う。

(2) 「総合学習の充実 (中学)」

来年度も引き続き、華道、チェス、囲碁、書道、マジック、ダンス、PBL (Project-Based Learning)、美術に加え、カメラを利用した学習を追加し、本校独自の学習活動の充実を図る。

今後、ますます思考力、判断力、表現力の育成が求められており、本校の特色ある授業として定着させる。

(3) 「国際交流の推進 (中学・高校)」

現在、オーストラリアのタスマニアに姉妹校があるが、受入れ人数は減少している。オーストラリアは世界的に不安定な状況の中でも安定しており、比較的危険度は低い国である。

29年度は新たな交流校として、シドニーにある IGS(International Grammar School)を追加した。親日的な交流校をさらに増やし、生徒や保護者の国際交流に対する要望に応えられる環境をつくる。

また、イギリスのケンブリッジ大学、アメリカの UCLA、ベトナム研修を滝井高校と合同で実施し、グローバルマインドの育成に努める。

(4) 「ココロの学校の充実 (中学・高校)」

社会で活躍している人たちの生き様に触れ、聴くことで、生徒の人間としての大いなる成長を期待して実施する。平成 30 年度も各界の方々をお招きする予定である。いずれの方の話も生徒の心を動かし、豊かな心を育成する上でも、建学の精神を醸成する上でも非常に有効であると思われる。

この取組みは他校に例を見ないものであり、本校の特色ある教育活動として定着させたい。

(5) 「生徒募集活動の積極展開 (中学・高校)」

中学募集 100 名、高校募集 280 名の数と質の確保を目指すため、募集担当教職員をはじめ、教職員一丸となって中学、高校の魅力をステークホルダーに伝えていく活動を積極的に推進する。

(6) 「志をたかめる」(中学・高校)

高等学校、中学校ともできるだけ早期に生徒自身に自分の将来を考えさせる取組が必要である。そのために、大学と連携して大学訪問や大学教授、大学院生、あるいは研究者に最新の研究成果などを講演して頂くなど、生徒に学びの刺激を与える取組を始める。

結果として、生徒が希望する大学への進学実績を伸ばしていくことをめざす。

(7) 「グローバル教育の充実 (English day の実施)」(中学・高校)

高等学校は、ますます英語教育の推進を図る必要がある。そのために、大学への留学生を招聘して一日中、英語での活動の取組を行う。

中学校においては、多国籍の留学生を招聘し、様々な国の文化に触れる機会を提供するとともに、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る機会とする。

このような取組により、グローバルな視野の育成を図ることを目的とする。

4. 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

(1) 「教育・保育の充実」

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基礎となる力を培う教育を実現する。園児が将来、国際社会で活躍するために必要となる英語力・読書力・ICT活用力等に苦手意識がうまれないうよう、幼児期から親しみをもたせる。

平成30年度は、0歳児から5歳児までの新園舎での生活が2年目になるが、教育・保育の内容や施設の使い方を工夫したり、必要に応じて見直していく。

行事及び様々な環境を点検し、充実した園舎の環境を存分に活用した教育・保育ができるよう工夫していく。

(2) 「幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携」

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることから、0歳児から5歳児までの教育課程・保育課程を充実させて、全教職員を対象に具体的に細やかな計画を立て、合同の園内研修会を計画的に実行し、保育教諭のさらなる資質向上につなげていけるよう連携を強化していく。

特に乳幼児・幼稚園児の健康や安心・安全を確保するため総合安全大綱を基に事故を未然に防止し、安全な環境を整える。

(3) 「情報の発信と園児募集」

新園舎であることだけでなく、大阪国際学園グループのこども園としてのメリット（大学施設の利用、大学・短大・中高の教員及び学生との交流・支援）などをPRする。また地域と連携、協力してつながりを深め、地域の子育てステーションとしての存在を高めていく。

教育課程・保育課程のカリキュラムによる質の高い教育、保育内容の実績・また0～2歳の3号認定児と幼稚園児の交流、2歳児から幼稚園教育へのなだらかな移行等、本園ならではの特色ある活動を情報発信し、守口市内の「幼保連携型認定こども園」のトップランナーとして知名度向上を図り、園児の獲得につなげる。

(4) 「短期大学部 幼児保育学科及び学園グループとの連携」

保育者の専門性の向上が不可欠であり、待機児童と関連して保育者不足が問題となっている。保育現場や大学教育にとっても大きな課題である。保育者養成の重要性が増している中、幼児保育学科との連携を強化するとともに、大学・短大と併設こども園との協働による保育者養成について、交流を充実させていく。

また、保育教諭が大学教員から直接指導を受けることで、保育教諭の資質向上にもつなげていく。さらに大和田中高及び滝井高とも交流を深め、活動内容や経験の幅を広げていく。

以上